

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 30 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて  WEB 投稿締切 4 月 13 日	74
○平成 30 年度大会講演会における「企画セッション」の募集について 企画締切 2 月 9 日	76
○平成 30 年度大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込みについて WEB 投稿締切 4 月 13 日	77
○今年もやります！ こりゃ映像！ 2018 —ミニ動画コンテスト— 応募締切 7 月 31 日	78
○学生会員入会時の特典について	79
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	79
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集！！	79
○平成 31 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	80
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	81
○PAWEES-INWEPF 国際会議 奈良 2018 (PAWEES & INWEPF International Conference 2018 Nara, Japan) の開催について（第 1 報） 11 月 20～22 日開催	82
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について	83
○平成 29 年度京都支部地方講習会・支部研修会の開催について  参加申込締切 1 月 25 日	84
○農業農村整備政策研究部会第 5 回研究集会の開催について  参加申込締切 1 月 16 日	84
○平成 29 年度農業水利研究部会研究集会の開催について（第 1 報）  2 月 17 日開催	85
○水土文化研究部会第 15 回研究会の開催について（第 1 報）  参加申込締切 3 月 1 日	85
○農村計画研究部会 農村計画に関する若手研究グループへの助成の募集について 申請締切 3 月 30 日	86
農業農村工学会論文集内容紹介	87
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	88
受入れ図書	89
文献目録	89
学会記事	92

第 86 巻第 2 号予定

展望：村上 章

小特集：学生の学生による学生のための農業農村工学会誌

報文：農業用管路の漏水検知に関する研究紹介と今後の展望：浅田洋平

報文：他出子による地域社会組織へのコミットメント：木納勇佑ほか

報文：黄金川流量の歴史的変遷とスイゼンジノリの保全対策：今田舜介ほか

報文：農業農村工学におけるアコースティック・エミッション研究の歴史と現状：島本由麻ほか

報文：柏崎野菜の土垂芋の栽培にみる農業生産面の支援：伊佐朋子ほか

報文：中山間地域の高齢農家による伝統野菜栽培のための人的支援：中山桃花ほか

技術レポート

北海道支部：富良野盆地地区における国営農地再編整備事業の効果：柴田 亮ほか

東北支部：落とし込みボーリングの効果検証：二田 力ほか

関東支部：「兎田暮坪地区」の 6 次産業化：大河戸輝夫

京都支部：畑地帯総合整備事業・金山南部地区における灌漑施設の施工：田中則行

中国四国支部：石灰改良したため池底泥を築堤材料に用いた施工事例：岡本貴也ほか

講座：農業農村整備のための生態系配慮の基礎知識（2）

—農業農村整備事業における生態系配慮のこれまで—：加藤広宣

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成30年1月24日	農業農村整備政策研究部会	第5回研究集会	—	東京都	85巻12号 86巻1号
平成30年1月25、26日	材料施工研究部会	第55回シンポジウム・現地研修会	Ⓟ 東北地方における農業関連施設の現状と課題について	仙台市ほか	85巻11、12号
平成30年2月6日	京都支部	平成29年度地方講習会・支部研修会	Ⓟ —	京都市	86巻1号
平成30年2月17日	農業水利研究部会	平成29年度研究集会	Ⓟ 農業用水の管理を考える(仮)	東京都	86巻1号
平成30年3月9日	水土文化研究部会	第15回研究会	Ⓟ 水土の“こころ”	東京都	86巻1号
平成30年9月4～7日	大会運営委員会	平成30年度農業農村工学会大会講演会	Ⓟ —	京都市	85巻12号 86巻1号
平成30年11月20～22日	農業農村工学会ほか	PAWEES-INWEPF 国際会議 奈良2018	Promoting sustainable paddy farming to achieve the SDGs	奈良市	86巻1号

平成30年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成30年度農業農村工学会大会講演会は、京都大学吉田キャンパスにおいて平成30年9月4日(火)、5日(水)、6日(木)の3日間および現地研修会9月7日(金)の開催を予定しています。

この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込みください。今回のご案内は、講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌4月号でお知らせします。

大会講演会の発表申込みはWEB投稿となります。

URLは http://www.jsidre.or.jp/zenkoku_application/ です。

WEB投稿の受付期間は平成30年3月1日(木)～4月13日(金)とします。

1. 講演要領

- (1) **講演資格**：代表発表者は、本学会会員に限ります。講演申込み受付の際、会員番号を確認します。この機会に入会される場合は、学会ホームページの入会手続き (http://www.jsidre.or.jp/about_member/) をご参照願います。
- (2) **講演内容**：学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受け付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**：12部門あります。ただしプログラム編成上、希望部門が変更される場合があります。
- (4) **講演方法**：原則として、1人(共同研究の場合は代表発表者)1課題とします。ただし、企画セッションと個人発表の各1件ずつの発表は認めます。個人発表者が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません。

- (5) **発表形態**：発表形態として「口頭発表」か「ポスター発表」のどちらかを投稿時に選んでください。

①「口頭発表」：各部門の講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式、②「ポスター発表」：講演会場とは別のポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。なお、プログラム編成上、やむを得ず発表形態が変更される場合があります。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更諾否」で「否」を選んでください。プログラムならびに発表形態、ポスターの大きさなどについては、学会ホームページで6月末までにお知らせします。

- (6) **講演時間**：①口頭発表は1課題15分(質疑時間も含む)です。また、企画セッションは1セッション100分です。②ポスター発表では、会期中にコアタイムを確保します。
- (7) **要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿をCD-ROM版講演要旨集に集録します。
- (8) **概要集**：WEB投稿時の入力情報のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演概要(200字以内)を、概要集に集録します。200字を超えるものについては、文章を割愛させていただきます。

2. 投稿要領

- (1) WEBから新規登録を行い、講演原稿のアップロード、および申込料2,160円(税込)の納入をもって申込みとみなします。振替用紙には必ず『大会講演申込料』、氏名、所属を記載してください。年会費等をまとめて支払う場合には内訳も記載してください。なお、送金後に発表を

取り消されても、申込料の返金はありません。郵便振替用紙は、本誌巻末に綴じ込んであります。送金済みの振替の控えをPDF以外の画像データとして、WEB登録画面から送信してください。

- (2) 講演原稿は、図・表・写真などを含め1課題2ページとします。後述の「3.講演原稿の書き方」に従い、作成してください。
- (3) CD-ROM版講演要旨集の作成に伴い、講演原稿のファイルはPDF形式でのアップロードとします。
- (4) 講演原稿PDFファイルは、半角ローマ字表記の代表発表者名(姓名)としてください(例:「nougyou tarou.pdf」)。

- ・Acrobat Distiller または Acrobat PDF (アドビシステムズ社: Adobe Acrobat に付属) を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換したPDF (Portable Document Format) ファイルとしてください。
- ・PDFファイルに、セキュリティ(文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更)の設定をしないようにしてください。

- (5) 受付期間: 平成30年3月1日(水)~4月13日(金)
(遅延・原稿差替えは不可)

(6) 問合せ先

(公社) 農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: zenkokutaikai@jsidre.or.jp
郵便振替: 00160-8-47993

加入者名: 公益社団法人農業農村工学会

銀行振込: みずほ銀行 新橋支店
普通預金 1167243

3. 講演原稿の書き方

- (1) 用紙サイズは、A4判(横210mm, 縦297mm)で、マージンは次のようにしてください(下図参照)。

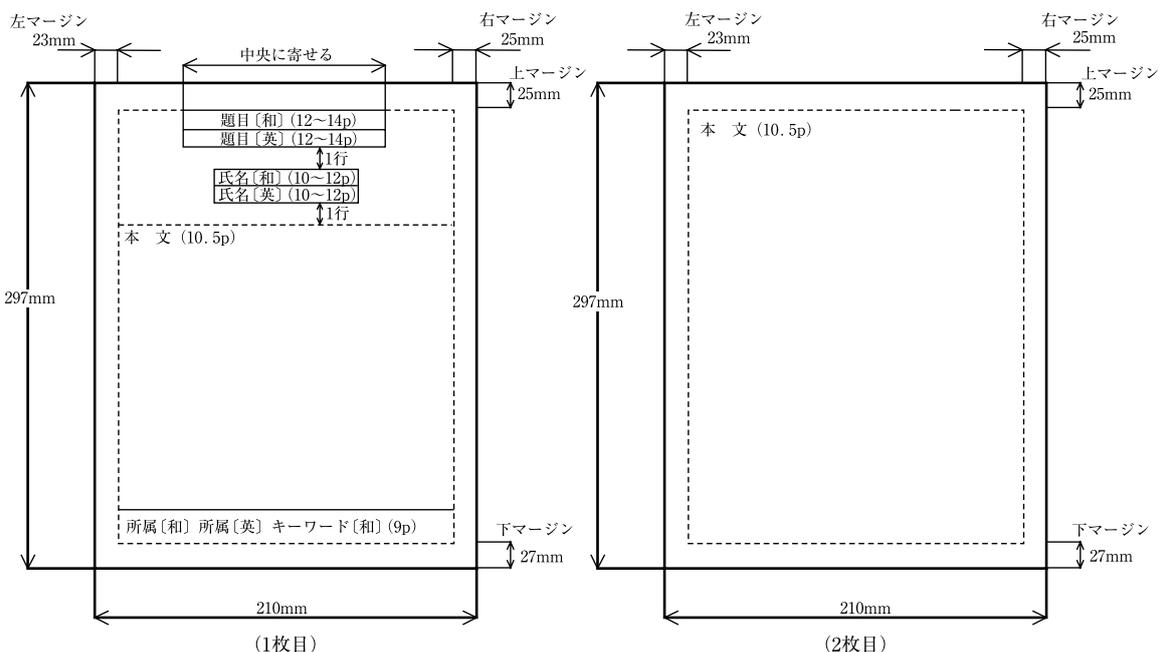
上: 25mm, 下: 27mm, 左: 23mm, 右: 25mm

(2) 書式

- ① 文字: 文字は、10.5ポイント以上としてください。標準フォントとして、MS明朝、MSゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使いください。特殊なフォントは極力使わないでください。また、機種依存文字(①, ②, …I, II, …等)も使わないでください。上下左右のマージン内いっばいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字してください。ワープロソフトによりこの組合せができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにしてください。
- ② 題目・所属・氏名・本文: 本文原稿の題目は、1ページ目の第1行と第2行に中央に寄せ、12~14ポイントで和英併記してください。講演者氏名は、第4行と第5行に中央に寄せ、10~12ポイントで和英併記してください。また、連名の場合には代表発表者の前に必ず○印をつけてください。

所属は、1ページ目の本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9ポイントで1行に和英併記してください。所属に続けてキーワード〔和〕(キーワード表参照)を書いてください。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に*や**を付けて、講演者と所属が対応するようにしてください。

本文は、第7行から書き始めてください。2ページ



キーワード表

1. 水 理	2. 水文・水質・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応用力学	6. 材料・施工	7. 灌 漑 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリー 砂漠化 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境 保 全	11. 生 態 環 境	12. 農 業 土 木 教 育 ・ 農 業 情 報
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農村景観	環境保全 環境影響評価 水環境 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 生物多様性 緑地 親水 ビオトープ 環境教育	農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育 測量・GIS リモートセンシング IT インターネット

目は第1行から書いてください。

- ③ 図・表・写真：本文とともに原稿用紙内に書き込み（あるいは貼り込み）、幅いっぱいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにしてください。また、図表の表題にも英語を併記してくだ

さい。

4. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権、コピーライト）は、（公社）農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。

平成30年度大会講演会における「企画セッション」の募集について

平成30年度大会講演会（9月4～7日（7日は現地研修会）、京都大学吉田キャンパス）における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はご応募ください。

企画セッションの利用としては、各種プロジェクトの成果発表、特定テーマに関する最新情報の紹介等を想定していますが、

会員の皆様の自由な発想で企画セッションを活用してください。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとなります。

企画の申込締切は2月9日（金）です。お申込みに当たっ

て、下記事項を学会事務局 (zenkokutaiikai@jsidre.or.jp) まで E-mail にてお知らせください。

- 1) 企画セッションのタイプ:「クローズド・タイプ」または「オープン・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名, 所属, 連絡先電話, E-mail
- 4) 企画セッションの概要 (200 字以内)

なおセッション数の関係上, 応募されたすべての企画セッションが採用されるとは限りません。また類似した企画が提案された場合, あるいは, 研究部会主催のシンポジウム等が別に企画されている場合, 調整をお願いすることがあります。企画の採否については, 研究委員会よりお知らせします。

「企画セッション」は, 特定のトピックについて, 原則 100 分間のセッションを, オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は, 通常の発表スタイルはもちろん, パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし, セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも, 最低 2~3 名以上の発表があることが前提です。なお, セッションの演者は会員であることを要しませんが, 大会参加費のお支払いは必要です。

企画セッションでの発表者は, 企画セッションと個人発表の各 1 件ずつの発表は認めますが, 個人発表者が複数の企画セッションで発表することは, プログラム編成上の理由から認めら

れませんので各オーガナイザーは発表者選定に当たり, この点に十分留意してください。

なお, 企画セッションも要旨集に講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。

各企画セッションの申込料は, 講演題数にかかわらず一律 12,960 円 (税込) となります。

今後のスケジュールは, 以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切
2月9日 (金)
2. 研究委員会で調整の後, 応募テーマの採否の連絡
2月26日 (月) 頃
3. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始 (発表希望者は各オーガナイザーに直接申し込む)
3月9日 (金) 頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切
3月23日 (金)
5. セッションの講演要旨原稿の提出締切
4月13日 (金)

申込み・問合せ先

(公社) 農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3 階
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
E-mail : zenkokutaiikai@jsidre.or.jp

平成 30 年度大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込みについて

平成 30 年度農業農村工学会大会講演会は, 京都大学吉田キャンパスにおいて平成 30 年 9 月 4 日 (火), 5 日 (水), 6 日 (木) の 3 日間および現地研修会 9 月 7 日 (金) の開催を予定しています。

この大会講演会では, 学生会員における講演発表の経験の場として, また全国の学生会員の学術交流をはかる場として, 学生会員を対象にしたスチューデントセッションが設けられます。スチューデントセッションで講演発表を行いたい学生会員の方は, 下記要領により, ふるってお申し込みください。今回のご案内は, スチューデントセッションにおける講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は, 学会誌 4 月号でお知らせいたします。

大会講演会の発表申し込みは WEB 投稿となります。

URL は http://www.jsidre.or.jp/zenkoku_application/ です。

WEB 投稿の受付期間は平成 30 年 3 月 1 日 (木) ~4 月 13 日 (金) とします。

1. 講演要領

- (1) 講演資格: 代表発表者は, 本学会の学生会員もしくは, 発表時点で学部を卒業あるいは大学院を修了後 1 年以内

の会員に限ります。講演申込み受付の際, 会員番号を確認します。この機会に入会される場合は, 学会ホームページの入会手続き (http://www.jsidre.or.jp/about_member/) をご参照願います。

- (2) 講演内容: スチューデントセッションでの講演内容は, 一般セッションの講演のようにまとまったものでなく, 博士論文, 修士論文, 卒業論文として取り組んでいる研究の途中結果や展望であってもかまいません。ただし, 指導教員もしくは共著者がいる場合は, 発表についての同意を要します。
- (3) 講演部門: 一般セッション (個人発表, ポスター発表) および企画セッションとは別のスチューデントセッションでの講演になります。
- (4) 講演方法: スチューデントセッションでの発表は, 1 人 (共同研究の場合は代表発表者) 1 課題とします。ただし, 「一般セッション (個人発表, ポスター発表) あるいは企画セッション」と「スチューデントセッション」での各 1 件ずつの発表は認めます。
- (5) 発表形態: 発表形態は, 口頭発表 (講演会場において, パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で

発表する形式)に限ります。

- (6) **講演時間**: 口頭発表は1課題9分(発表5分+質疑応答4分)です。(講演数により変更する場合があります。)
- (7) **要旨集**: (2)にあてはまるすべての原稿を講演要旨集に集録します。
- (8) **概要集**: WEB投稿時の入力情報のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演概要(200字以内)を、概要集に集録します。200字を超えるものについては、文章を割愛させていただきます。

2. 投稿要領

- (1) スチューデントセッションにおける講演申込料は無料です。
- (2) WEBから新規登録を行い、講演原稿のアップロードをもって申込みとします。
- (3) 講演原稿は、図・表・写真等を含め1課題2ページ以内で1ページでも可とします。本誌75ページの「平成30年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて3. 講演原稿の書き方」に従い、執筆してください。
- (4) CD-ROM版講演要旨集の作成に伴い、講演原稿のファイルはPDF形式でのアップロードとします。
- (5) 講演原稿PDFファイルは、半角ローマ字表記の代表発

表者名(姓名)としてください。(例:「nougyou tarou.pdf」)。

- ・ Acrobat Distiller または Acrobat PDF (アドビシステムズ社: Adobe Acrobat に付属) を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換した PDF (Portable Document Format) ファイルとしてください。
- ・ PDF ファイルに、セキュリティ (文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更) の設定をしないようにしてください。

- (6) **受付期間**: 平成30年3月1日(木)~4月13日(金)
(遅延・原稿差し替えは不可)

- (7) 問合せ先

(公社) 農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: zenkokutaiikai@jsidre.or.jp

3. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権(著作財産権、コピーライト)は、(公社) 農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構(JST)に提供されます。

今年もやります! こりゃ映像! 2018—ミニ動画コンテスト—

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. **応募締切** 平成30年7月31日(火)17時
2. **動画の制限時間** 60秒以内
3. **平成30年度のテーマ** (未定)
4. **応募資格** なし(どなたでも応募できます)
5. **応募方法** 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. **審査方法** 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. **賞金** 最優秀賞(1作品)2万円
優秀賞(2作品)各1万円
8. **アップロード方法**
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTubeにアップロードする(9. 参考資料を参照)。
 - ③ タグに3つのワード(jsidre2018, こりゃ映像, (テーマ未定))を入れる。
 - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT(jsidre.eizo@gmail.com)宛にメールで送る。
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名, 年齢, 性別, 所属, 連絡先, YouTube動画のURL)

9. 参考資料

- ・ YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
 - ・ スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>
 - ・ 【2017年版】Youtube(ユーチューブ)に動画をアップロードする方法
<https://www.youtube.com/watch?v=O1slFYR0KIY>
 - ・ 動画作成のヒント(超かんたん動画投稿法)
<https://www.youtube.com/watch?v=eq5PUALLukk>
- <参考>こりゃ映像2017 結果(テーマ: 農業用水)
- 最優秀賞:【農業用水】人と自然の力
弘前大学農学生命科学部地域環境工学科4年 山口裕里絵
https://www.youtube.com/watch?v=y5J1-Ox_S7A
- 優秀賞: 私の町の農業用水
岩手大学農学部農学生命課程3年 瀧田耀平
<https://www.youtube.com/watch?v=owtqvopLgzA>
- 優秀賞: こりゃ映像2017 金沢工業大学 徳永研究室
金沢工業大学 徳永研究室修士1年 笹原弘道
<https://www.youtube.com/watch?v=uP0Ra69-BR0>

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット（ハンドブック+用語事典+初年度会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット

（ハンドブック+用語事典+初年度会費）

学部生 17,000円（15,750円）

大学院生 19,500円（16,750円）

②必携3点セット

（必携+用語事典+初年度会費）

学部生 7,000円（5,750円）

大学院生 10,000円（7,250円）

③2点セット

（用語事典+初年度会費）

学部生 5,000円（3,750円）

大学院生 8,000円（5,250円）

（ ）内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたしません。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先（公社）農業農村工学会 図書係

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌1月号掲載の問題は2月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 31 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 31 年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真を基本に表紙を飾ることとします。なお、平成 30 年発行までの本趣旨を若干変更いたしましたので、趣旨を参考に魅力ある写真をふるってご応募ください。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は稲作農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業（水利）施設は、水田を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の食生活と文化などを支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然、地勢や地形に溶け込み、地域の文化を育み農村地域の景観を形成する重要な構成要素となっています。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。また、現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の形態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物（国外においては日本の関連技術が適用された事例）の匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：先人たちや現代の技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美」

2. 対象巻号 学会誌第 87 巻（平成 31 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（プリントは「写真用紙—フォトペーパー—滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB

以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春期 平成 30 年 6 月 30 日

夏季 平成 30 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限り

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 87 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 31 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 「Cover History（表紙写真由来）」執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第 86 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 縮 切 (A 4 判 1,500 字以内)
第 86 巻第 2 号 学生の学生による学生のための農業農村工学会誌 (仮)	公募終了
3 号 農業農村工学における ICT 活用の取組み, 課題と展望 (前編) (仮)	公募終了
4 号 農業農村工学における ICT 活用の取組み, 課題と展望 (後編) (仮)	公募終了
5 号 地域資源管理としての鳥獣害対策 (仮)	平成 30 年 1 月 10 日
6 号 ストックマネジメントの現状と課題 (仮)	平成 30 年 2 月 10 日
7 号 大会特集号 (京都支部)	公募なし
8 号 湖沼の水環境と農業とのかかわり (仮)	平成 30 年 4 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

第 86 巻第 5 号テーマ「地域資源管理としての鳥獣害対策」(仮)

シカ、イノシシなどの野生動物による農作物被害金額は毎年約 200 億円程度で高止まっています。鳥獣害は営農意欲の減退を招き、とりわけ中山間地域では、耕作放棄、離農の増加という負の連鎖を通じてさらなる鳥獣害の悪化を招くとされています。

鳥獣害対策は被害の最前線である市町村が中心となって進められています。現在、鳥獣害が認められる 1,500 市町村のうち 1,093 市町村に鳥獣被害対策実施隊が設置されています。国は平成 35 年度までにニホンジカ、イノシシの個体数を半減させることを目指し、被害対策の取組みや周辺の施設整備などを支援しています。

鳥獣害対策は、個体数調整、被害防除および生息環境管理を行うことが重要です。このような取組みは集落ぐるみで実施す

ることが基本ですが、鳥獣害が発生している市町村の多くは過疎化・高齢化が進んでいるため、活動が停滞している集落も多いと推察されます。またハクビシンやアライグマなど外来生物による食害の急増も看過できない課題です。これらには集落の地域資源管理能力が低下したことが関わっていると考えられます。

学会誌第 86 巻第 5 号では、ICT 技術などを活用した鳥獣害対策に関する先進的な事例、鳥獣被害対策実施隊など地域ぐるみの対策と効果、集落機能の低下がもたらした活動の限界とそれを乗り越えるための工夫、外来生物対策の最前線で浮き彫りにされた課題など、関連する調査や研究、取組みに関する報文を広く募集します。

第 86 巻第 6 号テーマ「ストックマネジメントの現状と課題」(仮)

ストックマネジメントの取組みが本格的に導入されて 10 年が経過しました。農業水利施設のライフサイクルコストを低減するための体系的な管理手法として、私たちに広く定着してきていますが、さらに効率的な管理手法や制度としてこれを成熟させていく必要があります。

たとえば、それぞれの農業水利施設の機能診断技術について、地域や施設の特長、機能調査の難易度に対応し、かつ効率的で安価な調査を行うため、さまざまな研究や工夫が行われて

いますが、より一層の高度化が望まれています。

また、ストックマネジメントの手法により作成された保全計画は、ライフサイクルコストという経済的な視点に立って長期の保全対策を見通した、合理的かつ経済的にも有効な実施計画として位置づけられています。しかし施設の劣化予測は、主に経験的な劣化曲線を用いているために一定の不確実性を有しています。さらに、ある種の農業水利施設のように破壊時の影響が深刻な施設については、経済的な視点のみならず、リスク回

避の視点から優先的に対策を行う必要もあります。これら課題に対応した新たな手法の開発と、^{ふくそう}輻輳する視点や条件に対し施設管理者や利水者などの関係者間で合意形成を図るリスク・コミュニケーションの取組みも、今後ますます重要となっています。

このような技術的な、あるいは制度や運用上の課題に対して、これまで関係各所でさまざまな立場での検討や研究がなさ

れています。新知見や発想により、技術的、制度的な進展も目覚ましく、新たな取組みが行われています。

そこで、学会誌第86巻第6号では、ストックマネジメントの現状と課題に関する小特集を組むこととしました。ストックマネジメントに関する先進的な事例などについて幅広く報文を募り、今後の取組みの一助になればと考えています。

第86巻第8号テーマ「湖沼の水環境と農業とのかかわり」(仮)

湖沼などの閉鎖性水域の水環境については、水質汚濁防止法やその特別法である湖沼水質保全特別措置法などにに基づき、都道府県を中心に対策が講じられてきました。それは、流域下水道整備、工場からの排水規制、農業排水対策など、あらゆる側面からの努力の積み重ねでした。経済成長の鈍化の影響もあるとはいえ、河川の水質は改善されたという認識が広く持たれています。他方、湖沼などの水質改善は頭打ちであり、一部には近年悪化するケースも見られます。さらに、これまであまりみられなかった種類の藻の大量発生や、難分解性有機物の蓄積など、新たな課題も浮かび上がってきています。

農業にとって湖沼は主要な用水源であり、また、排水の排出先であるために農業が汚染源になっているという両面的かつ深

い関係にあります。このため、水環境の保全にかかる農業面での研究は長期にわたりなされてきましたし、循環灌漑など農業排水からの水環境への負荷を軽減する対策も種々実施されてきました。それらの最前線は今、どういう状況になっているのでしょうか。2018年10月には茨城県つくば市で第17回世界湖沼会議が開催されます。湖沼の水環境と農業とのかかわりについて改めて考えてみる良い契機にしたいと思います。

そこで、学会誌第86巻第8号では、「湖沼の水環境と農業とのかかわり」と題する小特集を組むこととしました。ダム湖やため池も含めた湖沼の水環境について、行政的な取組みや保全対策の先進的な事例、物質循環も含めた水環境保全にかかる研究の現状や新たな課題などに関する報文を広く募集します。

PAWEES-INWEPF 国際会議 奈良 2018 (PAWEES & INWEPF International Conference 2018 Nara, Japan) の開催について (第1報)

1. 開催日 平成30年11月20日(火)～22日(木)
2. 場所 奈良春日野国際フォーラム 薨～I・RA・KA～
〒630-8212 奈良市春日野町101
TEL: 0742-27-2630 FAX: 0742-27-2634
3. テーマ Promoting Sustainable Paddy Farming to Achieve the SDGs
4. 募集論文トピック
Theme: Smart Management of Land, Water and Environment
 - 1) Water and Soil Management
Keywords: Higher Production, Modernization of Irrigation, Artificial Intelligence, Information and Communication Technology, GIS, Remote Sensing, related topics
 - 2) Disaster Management and Adaptation
Keywords: Risk Management, Climate Change, Recovery from Disaster, Resilience, or related

topics

- 3) Regional Resource Management and Rural Planning
Keywords: History and Culture, Smart Rural Development, Renewable Energy, Multi Functionality, Ecosystem Services, or related topics

5. 参加登録料 一般 300 USドル(仮)
学生 150 USドル(仮)

※早期割引および学生発表については現在検討中です。

6. 今後の日程

- | | |
|-----------------|---------------|
| Abstract 提出期限 | 平成30年3月31日(土) |
| Abstract 受理通知 | 平成30年4月30日(月) |
| Full Paper 提出期限 | 平成30年8月30日(木) |
| 参加申込締切 | 平成30年9月15日(土) |

7. その他

詳細は、本誌第2報でお知らせします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2016年7月から2018年6月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑩ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界14カ国からEditor（20名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2016年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Institute for Rural Engineering, NARO (National Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan
- ・ **Editors** 14カ国から20名
- ・ **Advisory Editing Board** 29名
- ・ **Chief Management Editor**
Dr. Yu-Pin LIN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China
- ・ **Managing Editors**

Dr. Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Techology, Seoul National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Mr. Nobuyoshi FUJIWARA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局（2016年7月から2018年6月まで）：

・ **Dr. Yu-Pin LIN**

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering, National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan, Rep. of China

TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980

FAX : + 886-2-2368-6980

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

投稿先：オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格：筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等：<http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

発行スケジュール：年4回（オンラインジャーナル）

購読料：正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員（院生含む）8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になります。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局

平成 29 年度京都支部地方講習会・支部研修会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



京都支部では平成 29 年度農業農村工学会京都支部地方講習会・研修会を下記のとおり開催します。多数のご参加をお待ちしております。

1. 日時 平成 30 年 2 月 6 日 (火)
 10:30～ 受付
 11:00～12:10 地方講習会
 13:10～16:30 支部研修会
2. 場所 ハートピア京都 (京都府立総合社会福祉会館)
 3 階「大会議室」
 〒604-0874 京都市中京区竹屋町烏丸東入ル清水町 375 番地 (京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車 5 号出口より直結)
 TEL: 075-222-1777 (代表)
 FAX: 075-222-1778
<http://heartpia-kyoto.jp/>

3. プログラム

・地方講習会

「農業水利施設の補修・補強工事に関するマニュアル (パイプライン編)」

農村振興局設計課施工企画調整室課長補佐 寺田周平

・支部研修会

- ①「少子高齢化社会のアセットマネジメントの考え方」
 関西大学環境都市工学部教授 小林 晃
- ②「農業水利施設の最新の機能診断技術」
 農研機構農村工学研究部門施設工学研究領域
 施設保全ユニット上級研究員 森 充広
- ③「草津用水二期事業の施設更新事例について」
 滋賀県農政水産部耕地課 福永和馬
 滋賀県大津・南部農業農村振興事務所 左寄雄一郎

4. 参加申込み方法

下記様式により、所属ごとに取りまとめ、E-mail、FAX または郵送にて事務局へお申し込みください。(参加申込書は 7. の京都支部ホームページからダウンロードできます。)

参加申込期限は、平成 30 年 1 月 25 日 (木) です。

【申込用紙】

平成 29 年度農業農村工学会京都支部地方講習会・研修会参加申込書
 所属機関名:

同上所在地:

申込代表者名 (ふりがな):

電話番号:

E-mail:

氏名	所属	CPD 番号	学会員有無	支払方法	備考

5. 参加申込み・問合せ先

農業農村工学会京都支部近畿事務局

(近畿農政局農村振興部設計課内)

〒602-8054 京都市上京区西洞院通下長者町下ル丁子風呂町

TEL: 075-451-9161 (代表) FAX: 075-417-2090

担当: 衣笠浩二 E-mail: koji_kinugasa@kinki.maff.go.jp

堀 宏昌

hiroaki_hori@kinki.maff.go.jp

6. 参加費 テキスト代: 2,000 円

・参加費の納入方法: 銀行振込または当日払い
 (納入方法は、参加申込書へご記入願います。)

・参加費の振込先 (銀行振込の場合)

銀行名: 京都銀行 府庁出張所 店番号: 102

口座番号: 普通 3184760

名義人: 農業農村工学会京都支部 代表者衣笠浩二

(ノウギヨウノウソソコウガクカイキョウトシブ
 ダイヒヨウシヤキヌガサコウジ)

※振込手数料は、各自にてご負担願います。

振込み後は参加費の返還には応じられませんのでご了承ください。

7. その他

農業農村工学会京都支部ホームページにも開催案内を掲載しますので、どうぞ参照してください。

<http://www.jsidre.or.jp/kyoto/>

農業農村整備政策研究部会第 5 回研究集会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業農村整備政策研究部会は、農業農村整備政策を進化・発展させるため、行政関係者と研究者などが日々の成果を発表する研究集会を年 1 回開催することとしております。ついては、下記の要領で、第 5 回の研究集会を開催することといたしました。

目まぐるしく移り変わるわが国経済社会に対応した農業農村整備政策の推進は、わが国農業の基盤強化と豊かな農村の実現

にとって急務です。研究者や行政関係者などの皆様が是非この研究集会に奮って参加していただき、農業農村整備政策の進化・発展に寄与していただければ幸いです。

1. 日時 平成 30 年 1 月 24 日 (水) 15:00～18:00

2. 場所 東京大学農学部 2 号館 2 階 化 1 教室

〒113-8654 文京区弥生 1-1-1

(東京メトロ南北線「東大前駅」下車 徒歩 1 分)

3. プログラム

寺田周平

- ① 開会挨拶 飯田部会長
- ② 発表
 - ・都道府県における GIS 利用実態に関する調査および分析
農研機構農村工学研究部門 遠藤和子
 - ・茨城県における農山村地域の維持・活性化施策について～
元気な農山村創生チャレンジ事業～
茨城県農林水産部農地局農村環境課農村活性化グループ
大津 豊
 - ・農業水利施設を観光資源に?マニアをターゲットにした地
域振興策
愛知県農林水産部農林基盤局農地計画課 熊谷祐里
 - ・グローバル社会における日本農業「海外現地精米による日
本産米の需要拡大」
(株)クボタアグリソリューション推進部 高橋 元
 - ・農業農村整備に係る地方単独事業制度に関する分析
農林水産省農村振興局整備部設計課施工企画調整室

※上記のほか2名の発表を予定しております。発表者・テ
ーマが決まり次第部会ホームページに掲載いたします。

- ③ 講評
- ④ 閉会挨拶 佐々木副部会長

4. 懇親会

研究集会終了後、キャンパス内(東大生協 農学部食堂)にて
18:00 から簡単な懇親会(会費:1人2,500円程度)を開きま
す。参加者は事前にお申し込みください。

5. 参加申込み

参加ご希望の方は、1月16日(火)までに下記の部会事務局
に、氏名、所属、連絡先(電話、E-mail)、懇親会の出欠予定を
E-mailにてご連絡ください。研究集会の参加費は無料です。

【問合せ・参加申込み先】

農業農村整備政策研究部会 事務局 寺田周平
E-mail: seisaku-bukai@jsidre.or.jp

平成29年度農業水利研究部会研究集会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業水利研究部会では、平成29年度農業水利研究部会研究
集会を下記のとおり開催いたします。皆様のご参加をお待ちし
ております。

- 1. 日 時 平成30年2月17日(土) 14:00~16:00
- 2. 場 所 東京農業大学 1号館113教室
東京都世田谷区桜丘1-1-1
(小田急線経堂駅下車 徒歩15分)
- 3. テーマ 「農業用水の管理を考える(仮)」
- 4. 講演者および題目

詳細は本誌2月号に掲載します。

- 5. 参加費 500円
- 6. 参加申込みおよび問合せ先
農業水利研究部会事務局
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
宇都宮大学農学部農業環境工学科 松井宏之
TEL&FAX: 028-649-8638
E-mail: matsuih@cc.utsunomiya-u.ac.jp

水土文化研究部会第15回研究会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



今、わが国の〈水土〉は各地で危機に瀕している。現状に目
を凝らし、未来に向けてこれを継承していくため、「かたち」と
「こころ」の二つの視点が重要と考える。

「かたち」は工学が得意とする対象であり、操作や配慮もしや
すい。一方、目に見えない「こころ」は扱いづらい。「動く」、
「揺れる」、「変わる」といった動詞を伴いやすいことに象徴され
る。また、芸術から受ける感銘のように、「かたち」を媒介して
感受されることもある。

育み継承していくべき〈水土〉の「こころ」とは何か。さま
ざまなアプローチから考えていきたい。

- 1. テーマ 水土の“こころ”
- 2. 日 時 平成30年3月9日(金) 13:00~16:00
- 3. 場 所 農業土木会館2階A会議室
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
TEL: 03-3434-0461

- 4. プログラム(表題は変更されることがあります)
講演「“こころ”をつなぐ」
豊田土地改良区資料室長(愛知県立大学講師) 遠 志保
「“こころ”をはかる」
農研機構西日本農業研究センター主任研究員 廣瀬裕一
パネルディスカッション「水土の“こころ”」
コーディネーター: 広瀬 伸

- 5. 参加費 無料
- 6. 参加申込締切 平成30年3月1日(木)
- 7. 申込み・問合せ先
〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6
農研機構農村工学研究部門 地域資源工学研究領域
地域エネルギーユニット ユニット長 後藤真宏
TEL: 029-838-7548 FAX: 029-838-7609
E-mail: griese@affrc.go.jp

農村計画研究部会 農村計画に関する若手研究グループへの助成の募集について

1. 趣旨

若手研究グループによる農村計画に関する調査研究活動を支援・奨励することにより、農村計画研究の学術的発展の振興に寄与することを目的として助成を行う。

2. 助成対象

以下のすべてを満たす研究グループ

- ・農村計画に関する具体的な研究テーマを持ち、農村計画学の新たな発展に寄与することが期待できる申請内容であること。
- ・研究グループの構成員はすべて本学会員であること。
- ・構成員数は3名以上であること。
- ・構成員の所属機関が2つ以上であること。
- ・応募時に全員40歳未満であること。

3. 助成期間 原則として1年以内

4. 助成金額 1件20万円程度

5. 採択件数 2件程度

6. 助成金の使途

助成金の性格上、旅費（実費）、調査費、聞き取り調査における謝礼金、借料（会議室等）、運搬費（郵送料等）等の実質的な研究活動経費に限る。備品、一般的な消耗品、パソコン等のハードウェアならびにソフトウェア、申請グループの人件費、研究組織の運営管理に必要な一般管理費等は不可とする。

7. 義務

- ・助成期間終了後1カ月以内に、農業農村工学会誌「原稿執筆の手引き」に準じて2ページにまとめた活動報告を事務局に提出すること。提出された活動報告は、承認を経て農村計画研究部会誌および農業農村工学会誌に掲載される予定である。
- ・助成期間終了後1カ月以内に会計報告書を事務局に提出すること。
- ・研究成果を農業農村工学会大会講演会において農村計画部門で発表すること。

8. 申請手続

申請書に必要事項を記入し、事務局宛に郵送するとともに、記入済みファイルをメールで送付する。申請書は農村計画研究部会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/keikaku/>) よりダウンロードし、ワープロで記入する。

9. 申請締切 平成30年3月30日（必着）

10. その他

募集は今回限りとする（毎年募集を行うものではない）。

11. 問合せ先

農村計画研究部会事務局

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学大学院農学研究院 中島正裕

E-mail : masa1021@cc.tuat.ac.jp

オンラインジャーナル 農業農村工学会論文集

農業農村工学会論文集は、より投稿しやすい環境と早期公開を実現するため、平成27年4月よりJ-STAGEを利用したオンラインジャーナルになりました。

J-STAGE上に公開されることで被引用環境も整っています。

進化した農業農村工学会論文集に皆様のご投稿をお待ちしております。

→ 電子投稿・査読システムの導入により、最短2カ月で審査終了！

→ 審査終了後、順次J-STAGEに掲載！

→ 論文集購読者は、オンライン登載直後より閲覧可能、

冊子体も配布、掲載料も低価格！

→ 投稿資格を緩和、非会員も条件により投稿可能に！